大津小学校資料の調査速報

―資料にみる学校と地域の歴史―

（高知県の学校資料を考える会・県立高知城歴史博物館作成）

学校資料シンポジウムの様子
（2019 年 12 月、高知市）

いまなぜ学校資料なのか？

近年、地域の学校に残された様々な資料（学校資料）への関心が高まっています。地域の中心にあった学校で使用された資料には、学校の歴史や地域の暮らしが記述されており、地域史の資料としての重要性が指摘されています。

背景には、少子化に伴う学校の統廃合などで、保管された資料が廃棄・散逸の危機に瀕していることがあります。公立小中学校の統廃合が相次ぐ高知県でも二〇一九年に県内の学校事務職員や学芸員らが「高知県の学校資料を考える会」（以下「考える会」）を結成し、学校資料の保存活用の動きを始めました。

大津小学校資料のレスキュー

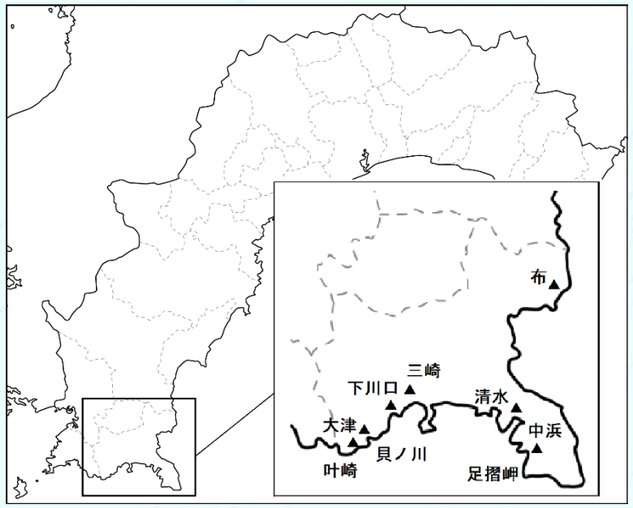
「考える会」と県立高知城歴史博物館（以下城博）などは、学校資料に関心を寄せていた土佐清水市教育委員会（以下市教委）と連携して、保存活動を始めました。対象となったのは明治以来の学校日誌が確認されていた旧大津小学校の資料群でした。一九九三年に休校、二〇〇四年に廃校となった同校の木造の旧校舎は老朽化しており、資料の救出・別置が必要でした。

二〇二〇年六月、市教委と城博、考える会などの計一六人で旧校舎内に置かれた資料類をレスキュー（救出）しました。資料は、学校博物館としての活用が検討されている旧中浜小学校に別置され一時的な保存対策をした上で、今後整理を行い、調査研究や活用を模索することとなりました。

資料レスキューの様子

大津小学校資料の概要と位置付け

土佐清水市大津は、大月町小才角に接する市最西部の集落で、中近世以降水産業で栄えました。集落の中心にあったのが旧大津小学校です。学校から救出した資料群は、閉校時にほとんどの資料が廃棄されず配置されたものでした。結果、平成初期の小学校に明治・大正・昭和と引き継がれてきた学校資料がどのような形で残存していたかという実態が把握できるものでした。すなわち、約４千点の資料は、全国的に把握されていない、学校資料の全体像を知る非常に稀有で貴重な資料群であることが確認できました。資料は「学校施設関係」、学校行事や予算など「学校運営関係」、教育指導計画や教材など「授業関係」、保健便りなど「保健教育関係」、文集など「児童関係」、交友会など「外部組織関係」に分類されます。また、重要資料として「学校沿革史」「学校日誌」がありました。



大津の位置と周辺の地名

大津小学校資料の調査と今後

考える会などは、市教委や土佐清水市郷土史同好会と協力し、二〇二〇年七月、八月、一一月の計三回旧中浜小学校で大津小資料の調査を行っています。調査では、所在場所ごとに資料の入ったダンボールのナンバリング後、クリーニングや各資料のナンバリング、資料目録の作成、学校日誌などの撮影を進めています。

考える会では大津小資料を基に、各学校や教育委員会が学校資料を評価選別し、残す際の指針となるマニュアル本の作成を計画しています。

大津小資料は、今後全国や高知県内の学校資料保存の先駆け、モデルとなる可能性を秘めています。

考える会は、地域の皆さんと協力して、大津地域の歴史や資料の魅力を発信していきたいと考えています。以下調査成果の一部を紹介します。

大津小資料の調査

大津小学校の沿革

明治　八年　二月　大津尋常小学校創立
明治二七年　二月　校舎修繕のため休業
明治三二年　三月　校舎改築、四月新校舎で授業開始
明治三四年　七月　赤痢病大流行のため閉鎖
明治四一年　二月　髪飾り、脂粉などを禁止
明治四三年　五月　姫の井方面へ修学旅行
大正一四年　七月　運動場拡張
　　八月　下田新衛より校旗寄贈
昭和　四年　五月　春季修学旅行、柏島一泊
昭和　八年一一月　貝の川校で連合運動会、リレーで優勝
昭和　九年　五月　五年・六年は宿毛方面へ修学旅行
昭和一五年一二月　下地亀松より二宮尊徳の銅像寄贈
昭和一六年　大津国民学校となる
昭和二〇年　四月　空襲警報発令のため授業中止
　　八月　一日から六日まで空襲のため臨時休業
昭和二二年　四月　下川口村立大津小学校となる
昭和二四年　四月　学校給食開始、五月給食場完成
昭和二五年一一月　下川口町立大津小学校となる
昭和二六年　七月　台風のため校舎倒壊

昭和二八年　三月　新校舎完成（二教室、一八坪）
昭和二九年　八月　便所新築落成（五坪）
　　八月　土佐清水市立大津小学校となる
昭和三〇年　四月　麻疹流行のため一週間の臨時休業
　　八月　電話開通（貝の川一〇番）
昭和三一年十二月　待望のピアノが届く
昭和三二年　四月　理科器具を購入
　　六月　流行性感昌のため臨時休業
昭和三六年　校舎改築のため分散授業
昭和三七年　八月　新校舎落成式挙行、十二月遊具完成
昭和三八年一〇月　炊事場完成、一一月テレビ取付
昭和三九年　九月　台風二〇号による被害甚大、臨時休業
昭和四一年　四月　複式総合研究で市の研究指定校
昭和四二年十二月　花壇完成
昭和四三年　四月　作文教育研究で市の研究指定校
昭和四三年十一月　市内体操発表会で最優秀校
昭和四四年　中野正満よりバックネット寄贈
　　二月　作文教育指定研究発表会
昭和四五年　四月　小林為太郎より七百余冊の図書寄贈
昭和四九年　四月　理科教育研究で市の研究指定校

昭和五〇年　二月　開校百年記念誌発行、百年記念の校門設置、百年記念式典挙行

昭和六〇年　五月　アスレチック完成

平成　二年一〇月　バックネット新設

平成　五年　三月　休校

平成一六年　廃校

※　沿革は、「学校沿革誌」（作成年記載なし）、『開校百年記念誌』（昭和五〇年）、『叶崎―大津小学校休校記念誌―』（平成五年）の三冊を参考にした。校舎の新築・改築、設備等の新設、合併などによる校名の変化、流行病や空襲などによる臨時休校、修学旅行や運動会、校則、有志の寄贈などに関する記述を抽出の基準にすえた。

大津小学校の児童数と学級編成

年	男	女	計	学級編成
明治30年	30	43	73	
明治31年	36	47	83	
明治35年	32	31	63	
明治39年	36	45	81	
明治40年	36	31	67	2学級編成
明治42年	55	48	103	
大正　5年	51	45	96	3学級編成
大正10年	38	41	79	
昭和　5年	52	50	102	
昭和10年	50	68	118	
昭和16年	48	42	90	
昭和20年	46	42	88	
昭和22年	50	55	105	4学級編成
昭和23年	57	65	122	
昭和24年	48	69	117	3学級編成
昭和25年	48	64	112	4学級編成
昭和26年	53	69	122	3学級編成
昭和30年	37	45	82	2学級編成
昭和40年	26	21	47	
昭和46年	11	9	20	
昭和58年	0	5	5	
昭和61年	1	7	8	
昭和62年	3	7	10	
平成元年	不明			2学級編成
平成　4年			3	1学級編成

※　学級数に変化がある年と児童数に大きな変化がある年のみを「学校沿革誌」、『開校百年記念誌』から抜粋した。昭和五〇年から昭和六二年の数値は、「学校日誌」を参考にした。平成四年の数値は『叶崎―大津小学校休校記念誌―』を参考にした。

休校から廃校へ

大津小と貝の川小の統廃合は、貝ノ川トンネルの開通（昭和六一年）によって、通学路の安全確保と通学時間の短縮が実現され、教育民生委員会が「小規模校の統合をすすめる」と決議したことから、本格的に話が進みました。

但し、まだこの頃は、大津小児童も一〇名程が在籍しており、入学予定児童もいたため、保護者が強く反対。さらに、「学校が地域の文化センターの役割を担っており、過疎の歯止めがなくなってしまう」といった、地域住民らの強い要望もあって、大津小は存続しました。

しかしその後、貝ノ川小の新築（プールも新築）により、統合の受入準備が整い、翌年度以降の入学予定児童が期待できなくなったことが決定打となり、平成五年三月に「休校」となりました。

地域の象徴であり、再開が望まれていた大津小は、あくまで「休校」でしたが、再開の夢は潰え、休校から十年を経た平成一六年、ついに廃校となりました。

学校日誌　児童の風紀

大津小には、明治二五年から昭和六二年年まで、計九〇の学校日誌が残されています（一部合冊。昭和三年度分欠）。

明治四〇年前後、児童の風紀に関する記載が増加しており、校内に「児童風儀協議会」が設けられ、男子の方言を規制、女子の頭髪衛生指導が始まり、「方言正語比較表」が作られ、例えば「オヂヤーン→オヂサン」「オバヤン→オバサン」など、共通語教育が推進されていることが分かります。

明治二五年の学校日誌

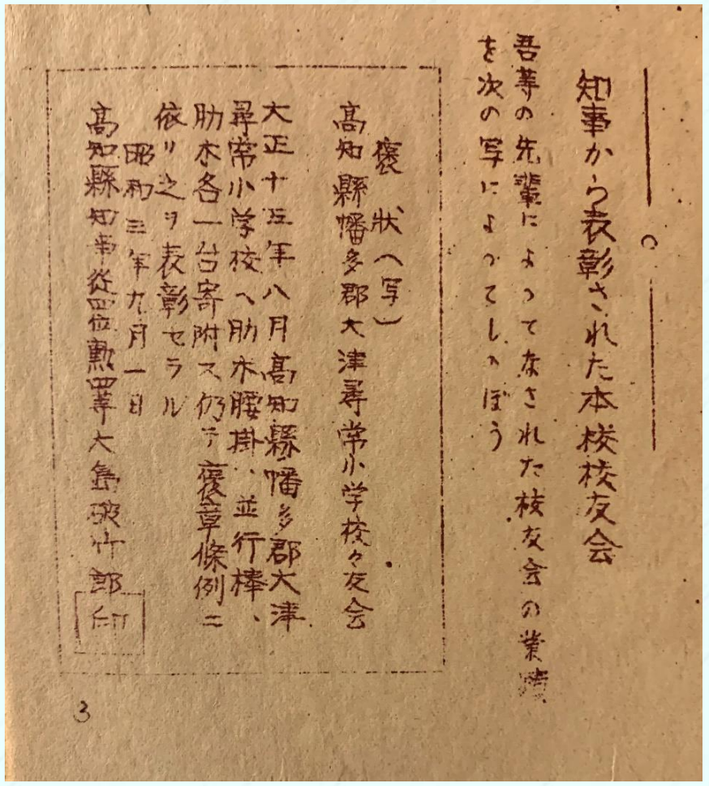
大正七年には、「他人ノ前ヲ通ル時ハ辞儀スルコト」・「他人ノ食事、湯浴等ヲ覗カヌコト」などが訓辞され、翌年には、言葉遣いの改良が企図されて、「オトウサン・オカアサン・キミ・ボク・アナタ・ワタシ」の使用と、「ダラ→僕」「ホンマ→ホント・マコト・ジッサイ」「チクリ→下サイ」の語用が指示されています。

学校日誌　戦争と学校

昭和六年の満州事変以降、学校日誌の世界も一挙に軍事色が強まります。満州事変映画会が開催され、九年からは満州事変記念日講話、一一年の記念日には国旗掲揚数調が実施されました。日中戦争が始まる一二年には、校友会誌『黒潮』の一文に対して、県警察部から「安寧ヲ害スル二付キカットスベキ旨」の指令を受けています。また、天満宮での出征兵士壮行会の回数は増加し、貝の川校で戦死者帰還式（村葬）が挙行され、葬儀に教師と児童が参列する記事が増えます。一五年以降は、部落常会の議題が配給米・節米等であり、児童は桑皮・天草・樫の実などの採取・出荷に動員され、生産増進の為に校庭の一部も畑に変容されたことが分かります。以後、敗戦に至る迄、布靴配給、セルロイド廃品回収、満蒙開拓義勇軍激励袋製作、慰問文作成、勤労奉仕、防空壕設置、敵機多数上空旋回のため授業中止等々、戦時色で塗りつぶされた学校日誌から、大津地区の戦時の様子が垣間見えます。

会誌「黒潮」からみた大津小の校友会

大津小の校友会は、教育の後援や校下文化の発展に貢献することなどを目的に戦前から組織されていました。戦後まもなく発行された会誌「黒潮」復刊号に寄稿された元校長の回想には、校友会が肋木や平行棒を寄付した事績について昭和三年に高知県知事から表彰を受けたこと、校旗の作成や国旗掲揚台を建設したことなどが紹介され、校友会の活動が学校教育の充実に大きな役割を果たしていたことが分かります。



知事から表彰された本校校友会

吾等の先輩によって成された校友会の業績を次の写によってしのぼう

褒状（写）

高知縣幡多郡大津尋常小学校々友会

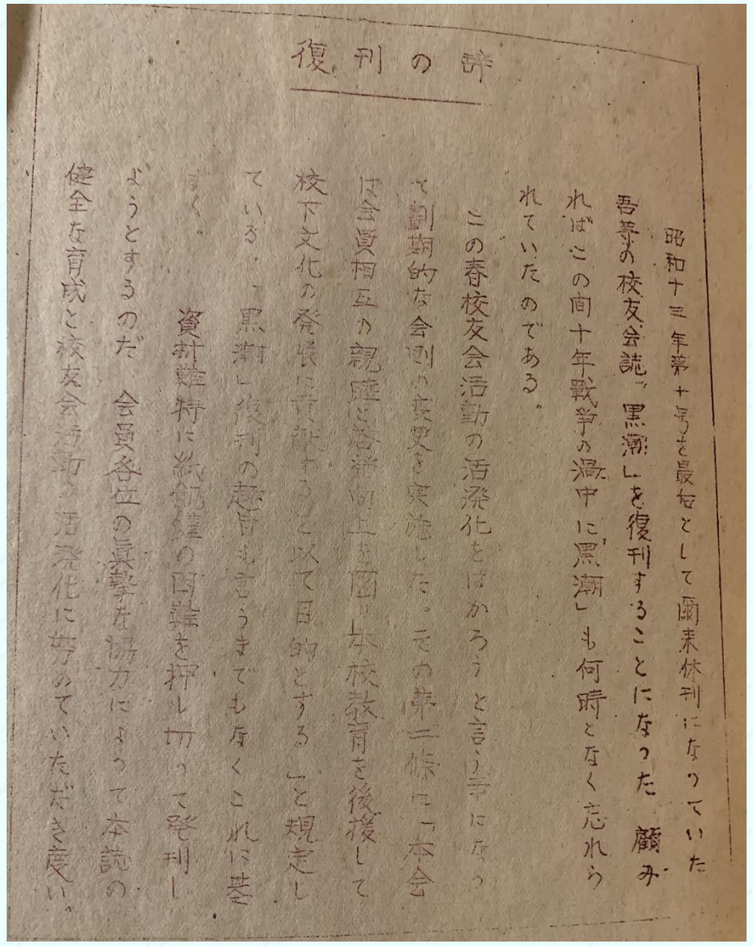
大正十五年八月高知縣幡多郡大津尋常小学校へ肋木腰掛、並行棒、肋木各一台寄附又仍テ褒章條例ニ依リ之ヲ表彰セラル

昭和三年九月一日

高知縣知事從四位勲四等大島敬介郎

3

『校友会誌黒潮』復刊号



復刊の辞

昭和十三年第十号を最后として爾来休刊になっていた吾等の校友会誌「黒潮」を復刊することになった。顧みればこの間十年戰爭の渦中に「黒潮」も何時となく忘れられていたのである。

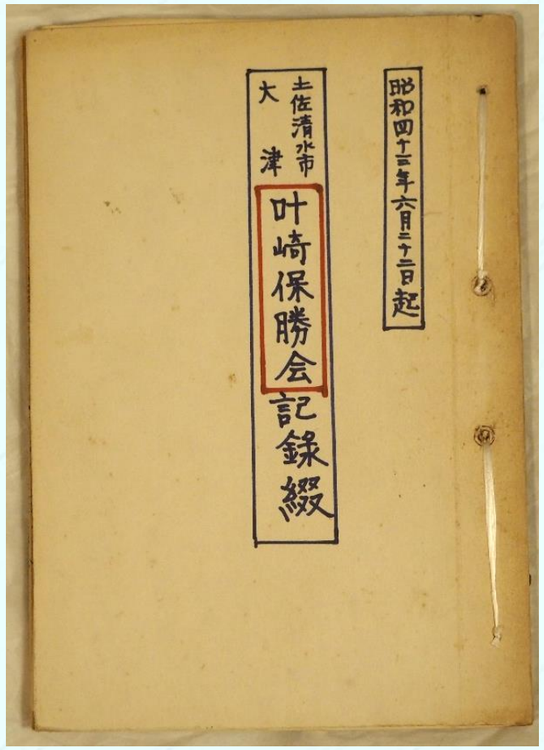
この春校友会活動の活潑化をはかろうと言う事になって創期的な会則の改定を実施した。その第二條に「本会は会員相互の親睦と修養向上を図り本校教育を後援して校下文化の発展に貢献すること以て目的とする」と規定している。「黒潮」復刊の意味もこうきまってもなくこれに基ずく。

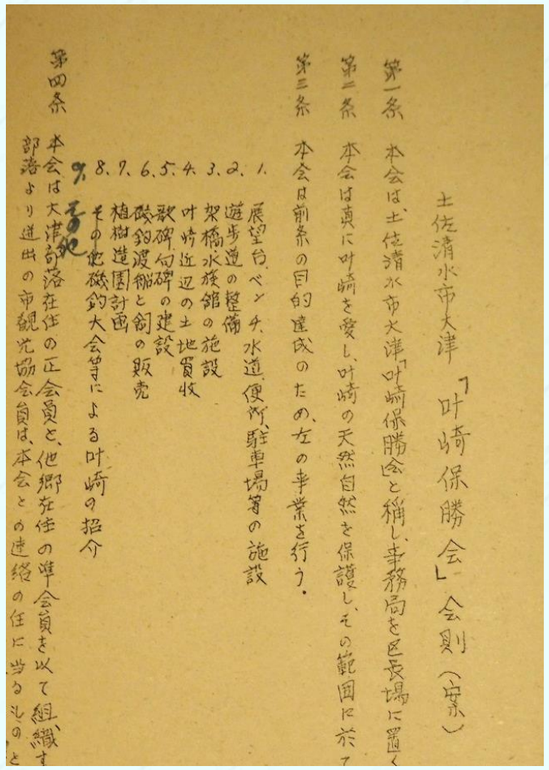
資材難特に紙物資の困難を押し切って発刊しようとするのだ。会員各位の熱誠を協力にまって本誌の健全な育成と校友会活動の活発化に努めていただき度い。

「叶崎保勝会記録綴」と足摺観光

昭和四〇年代の足摺の観光振興では、大津で近世以前からの景勝地・叶崎を売り出す住民団体「叶崎保勝会」の動きがありました。大津小資料の「叶崎保勝会記録綴」（昭和四三年）によれば、展望台や遊歩道、ユースホステル、水族館の整備、歌碑句碑の建設、磯釣渡船と餌の販売などの振興策が模索されています。当時足摺海底館などは未整備で、市内でどこに施設を造り拠点化を進めていくかという時期に、大津で保勝会が活動を始めたことが分かります。

『叶崎保勝会記録綴』





土佐清水市大津「叶崎保勝会」会則（要）

第一条　本会は、土佐清水市大津「叶崎保勝会」と稱し、事務局を区長場に置く。

第二条　本会は、真に叶崎を愛し、叶崎の天然自然を保護し、その範囲に於て

第三条　本会は前条の目的達成のため、左の事業を行う。

1. 展望台、ベンチ、水道便所、駐車場等の施設
2. 遊歩道の整備
3. 架橋水族館の施設
4. 叶崎近辺の土地買收
5. 歌碑、句碑の建設
6. 磯釣渡船と餌の販売
7. 植樹造園計画
8. その他磯釣大会等による叶崎の招介

第四条　本会は大津部落在住の正会員と、他郷在住の準会員を以て組織す

部落より選出の市観光協会員は、本会との連絡の任に当る。